

定値を用いる必要がある。この問題については別途後の機会に研究したい。

精度をあげてゆくべきものと思う。(31, 8, 25)

5. むすび

以上鹿島における最高流量の推定についてのべたが、すでにのべたようにこの種の問題の量的関係は、資料の精度その他に大きな制約があり、あまり細かい検討が出来ない。ここで提案したのも、現業で早く簡単におよその見当をつける程度のものである。今後は、資料の改善及び蓄積と、降雨予報の精度向上とによって、次第に

参 考 文 献

- (1) 窪田健次, 1956 : 天竜地域における降雨と流出について (第3, 4報) 電力気象連絡会彙報Ⅰ, Vol. 5, No. 4, 250~260
- (2) 窪田健次, 1956 : 天竜地域における降雨と流出について (第5報) (未印刷, 地区研究会で発表)

支 部 だ よ り (関西支部)

10月, 11月の支部活動をお知らせします。10月の月例会は「気象と統計に関するシンポジウム」で23日10時から17時迄, 大阪管区気象台会議室で開かれた。相会するもの約70名, 気象職員を主とし, 京都, 大阪の大学の方々も出席された。滑川支部長司会のもとに次の内容で進められた。

午前 セミナール

Handbook of Statistical Methods in Meteorology  
by C. E. D. Brooks (1953)

紹介者 大阪管区 喜多村 一 男

午後 講演

- (1) 気象統計について 松江測 三 沢 甚 一
- (2) 平均気温の標準偏差と  
平均期間との関係 大阪管区 北 田 道 男
- (3) 農業と気象統計 大阪府農大 田 沢 博
- (4) 複合確率について 近畿地建 藤 野 良 幸
- (5) 時系列に関する問題 大阪大学 伊 藤 博

気象統計に関するシンポジウムを当支部の月例会に取上げたのは初めてであるが、これを機として今後毎年1回気象統計が月例会で討議されることになったことは、今迄兎角なおざりにされていた観のあるこの問題に、関係者の関心を高める好機会を与えることと思う。今度の会でも観念的に頭に描いていた気象統計を実例をもって種々示されたことは参会者一同に大変有益であった。

11月の月例会は第2回目の「水気象に関するシンポジウム」として、広島地方気象台の御世話の下に、広島市鯉城会館で20日10時から17時まで開催された。参会者は65名で中国地方の気象職員が主であったが、地元の県庁, 地建, 電力会社からも出席あり講演も担当されたし, 遠く京都, 大阪, 和歌山の会員からも数名参加するという盛会振りであった。又閉会後有志の懇親会が持たれ, 多数の出席を得て, 和気あいあいに談笑された。

会の内容は次のとおりで例によって滑川支部長のユー

モラスな司会の下に熱心に進められた。講演も日常業務上の困っている点を解決しようと努力されたものが多かったように思う。

午前 セミナール

- (1) Secular changes in the rainfall regime of SE-Australia. by E. B. Kraus (Q. J. R. M. S. 1954)
- (2) Annual rainfall areas of southern England. by S. Gregory (Q. J. R. M. S. 1954)

以上紹介者 広島地気 山本 常男

午後 講演

- (1) 積算雨量計の検討 広島地気 上 田 君 雄
- (2) 台風の経路別による中国地方の雨量分布  
" 吉 持 昭
- (3) 降雨機構別による雨量分布" 西 田 宗 隆
- (4) 流域降水量について 米子測 三 宅 恒 夫
- (5) 太田川水系における最大日降水量の  
リターン・ピリオドについて  
広島地気 木 戸 岩 之 助
- (6) 小流域面積雨量と地点雨量との関係および  
雨量分布について " 太 田 巖
- (7) 電力に対する有効雨量 中国電力 山 県 哲 男  
小 川 清
- (8) 島根県内各河川の流域降雨量と増水位  
松江測 新 納 忠 寿
- (9) 太田川水系における王泊流域の流出系数  
広島地気 上 田 君 雄
- (10) 雨量と洪水波の関係 広島県河川課 田 中 為 雄
- (11) 融雪期の流量予想 広島地気 丸 木 一 雄

(隼田地区編集委員記)

× × × ×

× × ×